

町田市基本構想・基本計画

まちだ未来づくりビジョン2040

Machida Mirai-zukuri Vision 2040





<はじめに>

第1章

まちだ未来づくりビジョン2040が はじまります

1

策定の趣旨

日本全体の人口は、2008年の1億2,808万人をピークに減少局面に移行し、町田市の人口も1958年の市制施行以来、一貫して増加を続けていたものが、2018年に初めて減少に転じました。

2040年には団塊ジュニア世代^{*}が65歳以上の高齢者となり、2004年に約16%だった高齢者人口の割合は約36%¹にまで増加することが見込まれています。対して、約70%だった生産年齢人口^{*}の割合は約54%にまで減少するという推計が出ています。

一方、近年のAI^{*}(人工知能)やICT^{*}(情報通信技術)などの急速な進展は、より多様で柔軟な働き方ができる社会を実現させていっています。また、世の中の消費動向が“モノ”から“コト”へと転換、さらには時間や目的の共有を重視する方向へシフトするなど、私たちの生活は変革の時を迎えています。

町田市では、このような社会経済状況や人々のライフスタイルの変化を大きなチャンスと捉え、誰もが夢を描くことができ、幸せを感じられる未来をつくるために、「まちだ未来づくりビジョン2040」を策定します。

2

位置付け

「まちだ未来づくりビジョン2040」は、市民、地域団体、事業者など町田市に関わるすべての人々が、共に実現を目指していくビジョンとし、その実現に協力していただける人から新たに関わりを持っていただける人まで、多くの人を惹きつける魅力的なビジョンとして策定します。

そして、町田市におけるまちづくりの基本指針を示すとともに、市政運営の基本となるビジョンとして位置付けます。

¹ P.38 グラフ「町田市における将来人口の推計結果」を参照



構成

(1)構成

「まちだ未来づくりビジョン2040」は、基本構想部分を担う「2040なりたい未来」と基本計画部分を担う「まちづくり基本目標」及び「経営基本方針」で構成されます。

また、ビジョンの実現に向けて、具体的な事業と取り組みを示す実行計画を策定します。

①2040なりたい未来

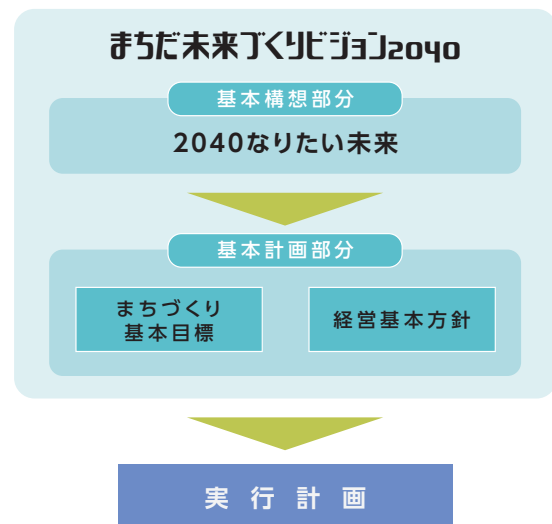
まちづくりの方向性、行政経営の方向性を明らかにし、方向性に沿って進んでいった未来の姿を「なりたいまちの姿」（都市像）、「行政経営の姿」（経営像）として掲げます。

②まちづくり基本目標

「2040なりたい未来」で掲げた、なりたいまちの姿を実現するための目標を政策・施策として体系的に示します。

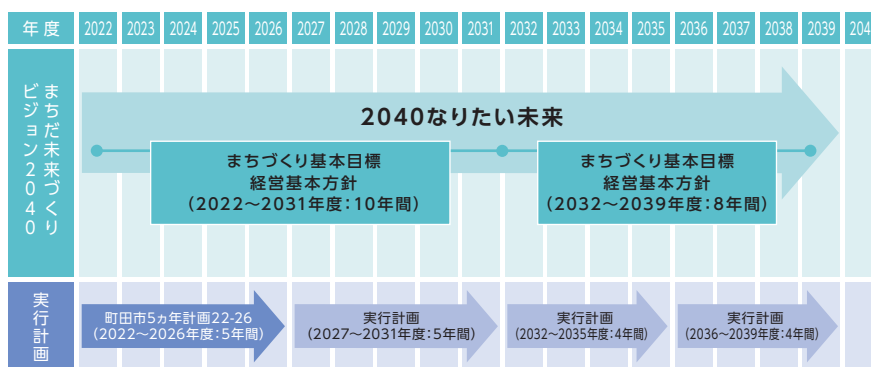
③経営基本方針

「2040なりたい未来」で掲げた、行政経営の姿を実現するための方針を体系的に示し、「まちづくり基本目標」を支えます。



(2)期間

基本構想部分を担う「2040なりたい未来」は、2022年度から2039年度までの18年間、基本計画部分を担う「まちづくり基本目標」及び「経営基本方針」は、2022年度から2031年度までの10年間と、2032年度から2039年度までの8年間とします。



4

2040なりたい未来の構成

これまでの町田市のまちづくりは、暮らす人、働く人、訪れる人など、多くの「人」によって支えられてきました。そして、それはこれからも変わらないことであり、多様であることが当たり前の社会においては、一人ひとり生き方の違う「人」が、それぞれのライフステージにおいて活躍できる環境があることがより重要になってきます。

このことを踏まえ、「2040なりたい未来」では、誰もが夢を持ち、その夢を実現できるまち、一人ひとりが輝けるまちとなるため、町田市のまちづくりの方向性となりたいまちの姿、そして、行政経営の方向性と行政経営の姿を明らかにするとともに、2040年の未来の町田市のイメージをキャッチコピーとして定めま





<基本構想編>

第Ⅱ章

2040なりたい未来

1

2040年の町田市の イメージ

町田市は、2040年に向けたまちづくりの方向性となりたいまちの姿、行政経営の方向性と行政経営の姿をそれぞれ明らかにし、それらからイメージされる未来の町田市を一言で表すキャッチコピーを以下のとおり決めました。

なんだ かんだ まちだ

「なんだかんだ言っても、やっぱり町田が一番」、この感覚は、町田で暮らす子どもから高齢者、また、町田を拠点に活動する事業者や団体など、町田市に関わった人の多くが抱くものです。

自分や家族が成長していく場所として、仕事や学び、遊びに励む場所として、一息つく場所として、知らず知らずのうちに町田を選んでいる。

これは、都市と自然のバランスのよさに加え、自由な発想や生き方を受け入れる寛容さを町田というまちが持っているからにほかなりません。

様々な理由で一度は離れたとしても、肩肘張らずに暮らせる環境を求めて、結局は町田に戻ってくるような、そんなみんなに愛されるまち、ほかにはないユニークなまちのイメージを「なんだ かんだ まちだ」というキャッチコピーで表現しています。

将来人口

2040年における、町田市の将来人口を40万人と想定し、「2040なりたい未来」の実現に向け、皆さんと一緒にまちづくりを進めます。

2040年の将来人口

40万人

3

なりたいまちの姿と まちづくりの方向性

◆ なりたいまちの姿 1



ここでの成長がカタチになるまち

2040年という未来のまちの中心的な役割を担い、第一線で活躍しているのは、今の子どもたちです。人口減少が進む中、子どもたちがずっと住み続けたいと思えることは、将来にわたり選ばれるまちの重要な要素となります。

子どもの頃の素敵な思い出は大人になっても忘れないものです。町田市は、子どもたちに様々な経験やチャレンジの機会を提供するとともに、自由で柔軟な発想を受け入れる環境を整え、まちへの誇りや愛着の醸成につなげていきます。そして、子どもたちが自分の成長を有形・無形問わず何らかのカタチとして実感し、自身の未来を描いていってほしいと願っています。

一方で、周りの大人たちが楽しく暮らしていてこそ子どもたちの健やかな成長があります。親や祖父母はもとより、普段子どもとあまり接点のないような大人たちまでもが互いに協力し合って社会全体で子育てしている、そういうことが当たり前ができるまちならば、みんなの心に余裕が生まれ、大人だって成長していくことができるはずです。

子どもと共に成長していった先には、ここで暮らしてよかったと誰もが思えるような、それぞれにとっての幸せのカタチが生まれている、町田市はそんなまちになることを目指します。



◆まちづくりの方向性 1



子どもと共に成長し、幸せを感じることができる

人口減少という課題に直面する中、2019年度に行った調査では、町田市の希望出生率は1.91という結果が出ています。これに対して合計特殊出生率^{*}は1.24前後を推移していることから、子どもを産み育てたいと考える人たちの希望がかなっていない状態にあると言えます。

また、将来的にも人口減少が続くことが推計で示されていることから、これから先、町田市は行政サービスを提供している基礎自治体として少子化対策に取り組み、子育ての希望をかなえていく必要があります。

町田市で子どもを産み育てていきたい、また、2人目、3人目をもうけたいと思えるためには、子育てへの不安を払拭できるような、お互いを信頼でき、幸せを感じられる社会であることが求められます。様々な支援があり、ここでなら安心して子どもを産むことができる、子どもが健やかに成長していってくれるという確信が持てる社会であれば、自ずと出生数は増えていきます。

また、子どもの周りに、こうなりたいと思えるような素敵な大人がいることや、自分に関係するまちづくりに参加できること、安全・安心な環境があることなどが、子ども自身がここで育っていききたい、育ってよかったと思えることにつながり、将来の転出抑制、転入促進にもつながっていきます。

人口減少時代にあっては、このように、大人も子どもも未来への希望が持てることを大事にしていく必要があります。

これから先、町田市が持続可能なまちであるためには、少子化という問題を避けては通れません。このことに果敢に取り組む姿勢を示すとともに、町田市で生まれ育った子どもたちに次代の町田市をつくってほしいという願いを含め、「まちだ未来づくりビジョン2040」では、「子ども」を起点に、まちづくりの方向性を考えていきます。

子どもにやさしいまちは、高齢者や障がい者など、みんなにやさしいまちです。町田市は2040年に向け、親や祖父母、地域など、子どもを取り巻く様々な主体が、子どもと共に成長し幸せになっていくことができるまちづくりを進めます。



第Ⅴ章

まちづくり基本目標

胎児期・幼年期
(0～5歳)

少年期
(6～18歳)

青壮年期
(19～44歳)

中年期
(45～64歳)

高年期
(65歳～)

＼ 政策 /

2

未来を生きる力を 育み合うまちになる



子どもたちは未来に向かって、やりたいことややりたいものを選び取っていきます。そして、その選択肢を増やせるよう支えていくことが市の責務です。町田市で育った子どもたちが様々な分野で活躍できるよう、また、地域全体で成長していくことができるよう、子どもたちの学ぶ意欲を育てる取り組みや、教育環境の充実などを図っていきます。



POLICY

政策実現によってなりたい姿

大人と子どもが共に成長し、まちづくりに取り組んでいます。

政策実現にあたって意識する指標

子どもがいきいきと育つ
地域環境が整っていると思う
市民の割合

現状値

53.0%

(2021年度)

目標値



将来の夢や目標を持っている
児童・生徒の割合

小682.8%

中367.6%

(2019年度)



現状と課題

情報化やグローバル化*が進む社会において、子どもたちが主体的に行動していくための基礎となる学習環境の整備や、学校、家庭、地域の連携体制の構築などが求められています。

政策に紐づく施策

施策 2-1

子どもが自分らしく
育つ場を提供する

施策 2-2

学ぶ意欲を育てる

施策 2-3

教育環境を充実させる

施策 2-4

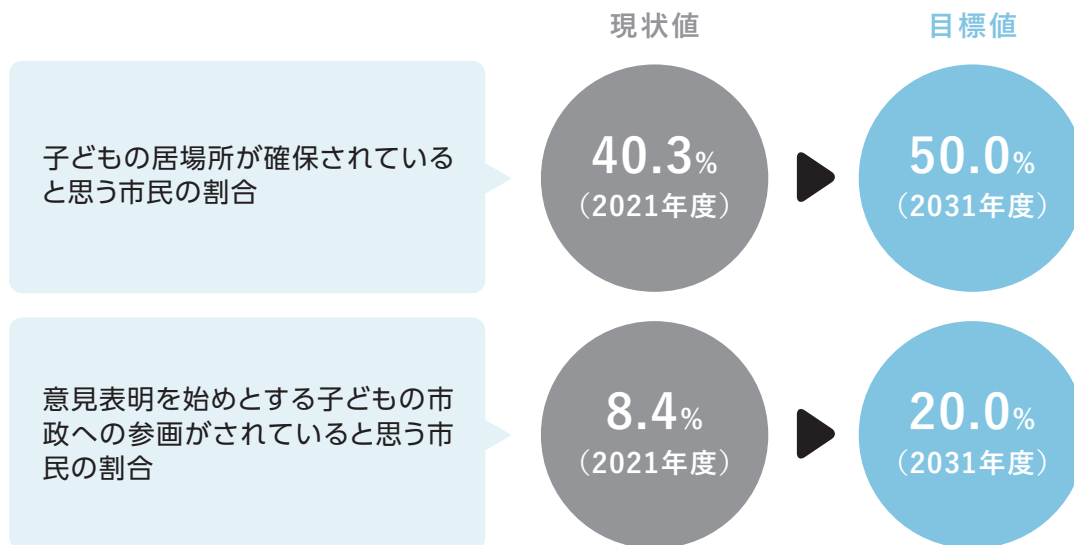
地域の教育力を高める

子どもが自分らしく育つ場を 提供する

施策実現によってなりたい姿

- 行政のあらゆる活動に子どもが意見でき、大人と共にまちづくりに取り組んでいます。
- 家庭の事情に関係なく、子どもが「活動の場」「生活の場」「豊かに過ごせる場」を選択できるまちになっています。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 2020年の国内の出生数は、統計以来最も少なくなりました。この少子化傾向は、今後数十年続くことが見込まれます。

【町田市の現状・課題】

- 合計特殊出生率が、国や多摩26市の平均を下回っている状況です。

- 近年、年少人口の転入超過が続いており、子育て世帯に選ばれるまちになっています。

【今後予想される課題】

- 子どもを産み育てたい人たちの希望をかなえられる環境づくりが必要です。



なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 子どもの参画の推進

子どもたちが大人と共に、市政に関する意見交換や検討の機会に参画できるようにします。
また、子どもの参画を推進することで、ユニセフが主唱する「子どもにやさしいまちづくり」を実現します。

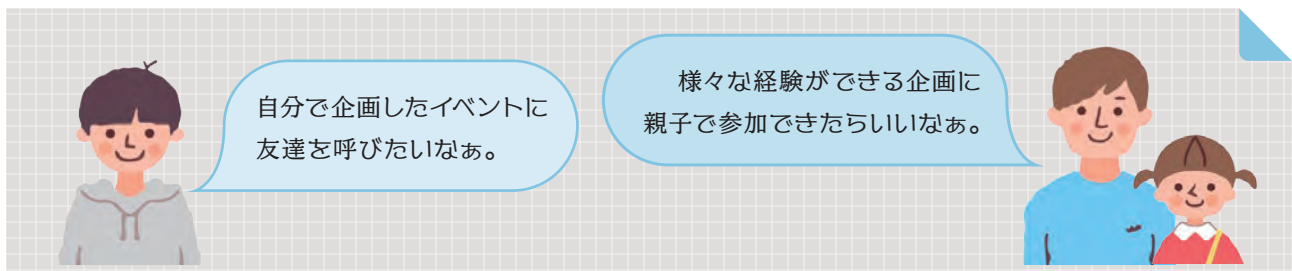
2 子どもの居場所・活動拠点づくり

0～18歳の子どもたちが、遊び、野外活動、創作、スポーツ、調理などの様々な体験活動や異なる世代との交流を通して、社会性とコミュニケーション能力を育む場を提供します。

関係する町田市の計画

- 新・町田市子どもマスタープラン

みんなの思い

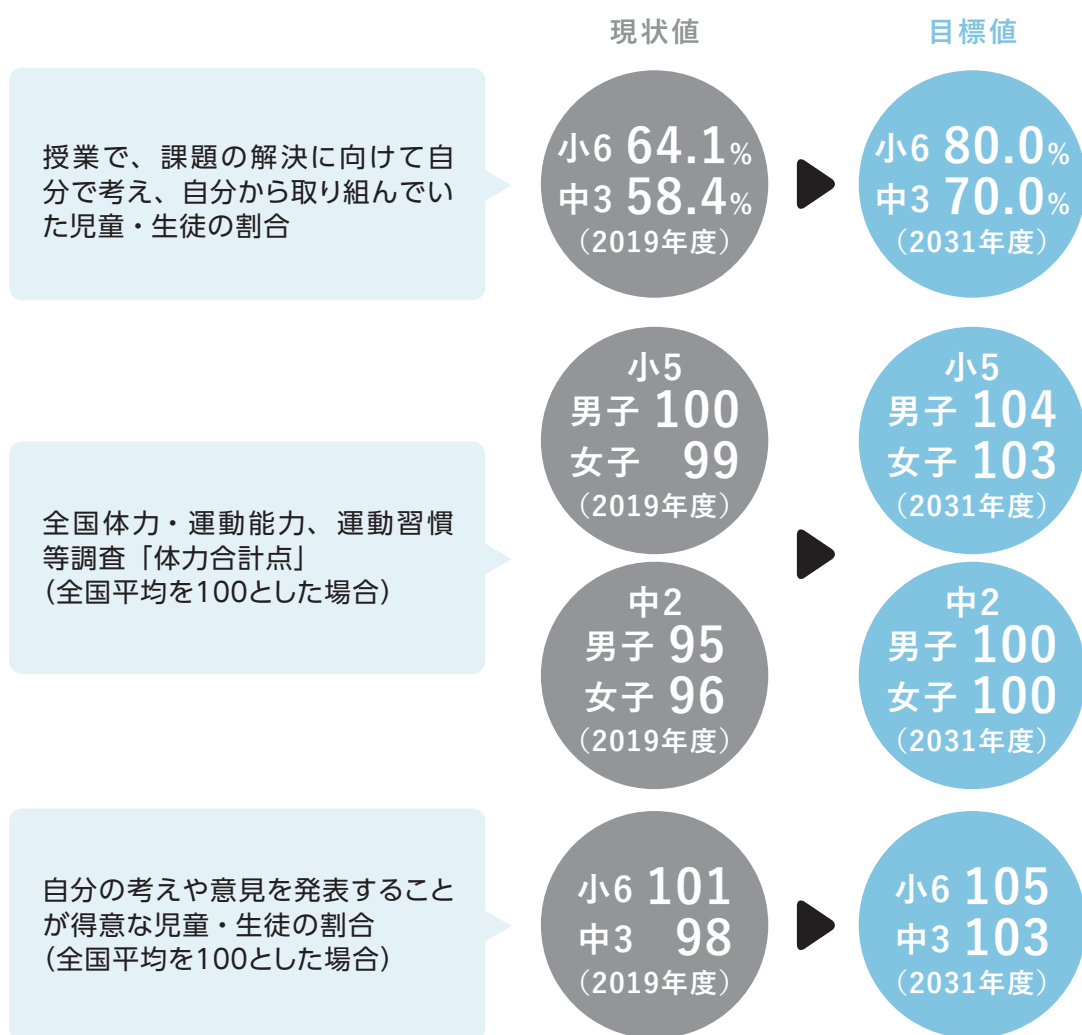


学ぶ意欲を 育てる

施策実現によってなりたい姿

- 次代を担う子どもたちが、グローバル化やICTなどの技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの社会において、夢や志を持ち、自ら考え、目標に向かってたくましく生きることができるようになっています。

なりたい姿の実現度を測る指標





現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、「学びの保障」をどう確保していくかが課題となっています。
- 2020年度に小学校で、2021年度に中学校で新学習指導要領が全面实施され、小学校3・4年生に外国語活動、5・6年生に外国語が導入されました。英語教育の本格実施に伴い、指導力の強化、指導体制の充実が求められます。

【町田市の現状・課題】

- 児童・生徒の学力・体力は、東京都と比較して低い状況です。

- えいごのまちだ事業の展開もあり、「英語が楽しいと思う」小学校5年生の児童の割合が増加傾向です。2020年度は、コロナ禍による授業形態の制限などにより、その割合が若干減少したため、指導形態などの工夫が必要です。

【今後予想される課題】

- グローバル化やICTの技術革新が急速に進むなど、予測困難なこれからの社会に子どもたちが対応できる力をいかに育んでいくかが課題です。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 児童・生徒の学力の向上

一人1台のタブレット端末配備による個別最適化や協働的な学びの場面を取り入れ、児童・生徒の学力向上を推進します。また、対話形式の学習機会を増やすなど、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組みます。

加えて、英語教育では、体験し実践する機会を確保し、コミュニケーション能力の育成に重点を置いた町田ならではの教育を進めます。

2 児童・生徒の体力の向上

共に競い合い高め合う機会や楽しく運動する機会を充実させ、児童・生徒の運動への興味・意欲を高めます。

さらに、運動部活動のあり方を見直し、生涯スポーツに取り組める多様な場となるような仕組みづくりを進めます。

3 キャリア教育[※]の推進

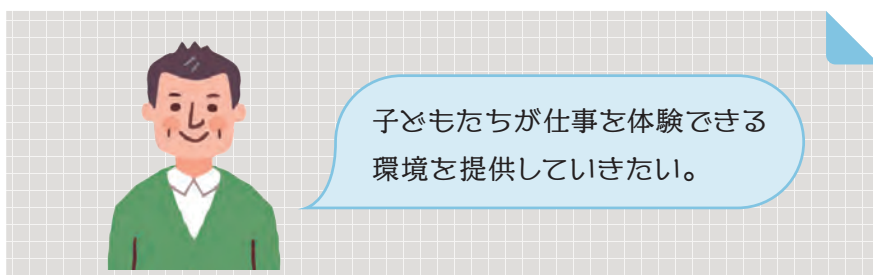
持続可能な社会の創り手に必要な社会的自立・職業的自立の基盤となる能力を育むため、キャリア教育を推進します。

また、多様な職業に対する興味・関心を高めるため、企業による出前講座や仕事の体験、学校ごとの取り組みの工夫、キャリア・パスポート[※]の効果的な活用など、体系的なキャリア教育を進めます。

関係する町田市の計画

- 町田市教育プラン2019-2023

みんなの想い

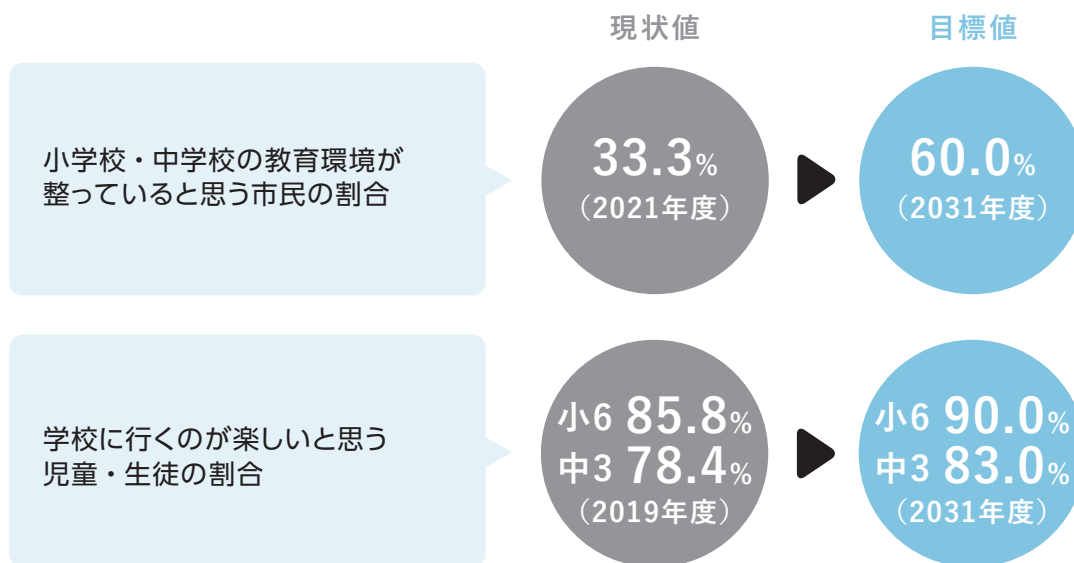


教育環境を 充実させる

施策実現によってなりたい姿

- 質の高い教育環境の下で、子どもたち一人ひとりの能力・可能性が育まれています。
- 子どもがいつでもどこでも誰でもそれぞれに適した方法・場所で教育を受けることができます。

なりたい姿の実現度を測る指標



現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 学校施設は老朽化し、建物の更新や費用の平準化が課題です。国では、長寿命化計画に基づく予防的な改修工事を対象とする補助制度を拡充しています。
- 東京都は、国の「学校における働き方改革に関する緊急対策」を受け、教職員の負担を軽減するとともに、学校の運営体制について検討しています。

【町田市の現状・課題】

- 町田市立小・中学校は建設時期が1970年代に集中し、2021年4月時点で築30年以上の学校施設が55校とな

っており、老朽化施設の整備や改修、建替えを計画的に行うことが必要です。

- 子どもを取り巻く課題の複雑化や教育ニーズの多様化による学校教員の負担増を軽減するため、学校を支える人員体制の構築を進めています。
- 児童・生徒数は減少している一方で、特別な支援を必要とする児童・生徒の人数が増加しています。
- 中学校給食については、従来の選択制給食の利用が減少傾向にある中で、家庭環境の多様化に伴い、全員給食を求める声が多くなってきています。

**【今後予想される課題】**

- 学校統合などを契機とした建替えを行う学校において、質の高い学校施設の整備が必要です。
- “生きた教材”である学校給食を通して、子どもたちの食を正しく選び取る力を強化していく必要があります。

なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 質の高い教育環境の整備

小・中学校の機能向上と老朽化対策を目的とした改修・建替えを計画的に進め、学校施設に求められる機能・性能の確保や、ライフサイクルコスト*の縮減を図ります。

また、成長期のすべての中学生に安全・安心で栄養バランスの整った「温かい給食」を提供するため、「給食センター方式による中学校全員給食」の導入に取り組みます。

2 学校のマネジメント力の強化

校務の見直しや専門的な知識を持った人材などを適切に活用し、複雑かつ専門的な教育ニーズに対応できる組織体制を整備します。

3 特別支援・不登校支援の充実

特別支援教育プログラムを改定し、すべての教員の特別支援教育に対する意識・指導力を向上させます。また、特別支援教室の環境を改善し、情緒障がいなどの生徒への指導内容の充実を図ります。

さらに、教育センターの適応指導教室などを拡充し、不登校児童・生徒の支援の充実を図ります。

関係する町田市の計画

- 町田市教育プラン2019-2023
- みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画
- 町田市立学校個別施設計画 ～学校整備計画編～
- 町田市新たな学校づくり推進計画
- 町田市立学校個別施設計画

みんなの想い

温かくておいしい給食を
食べたいなあ。



地域の教育力を 高める

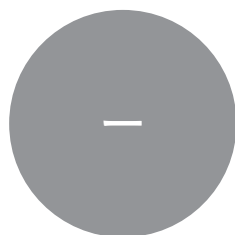
施策実現によってなりたい姿

- 地域人材の経験やスキルをいかし、子どもたちが未来を生きる力を育むとともに地域人材の活躍の場を作り出す双方向の「連携・協働」型の活動が充実しています。

なりたい姿の実現度を測る指標

学校は地域と一体となって子どもを育む場であると感じる保護者の割合

現状値



目標値

小 100%
中 100%
(2031年度)

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- つながり、支え合いの希薄化などによる地域社会の教育力の低下が指摘されています。
- 従来の地域の個別活動を、学校と連携・協働して子どもの成長を支える地域学校協働本部へ発展させることを急務としています。

【町田市の現状・課題】

- 学校支援ボランティア*と学校ニーズの不一致による人材不足や学校ごとの取り組みの格差を解決した継続的・安定的な活動づくりを進めることが求められています。
- 学校が地域に支援してもらっただけでなく、地域と学校が共に育つための仕組みづくりが求められています。

【今後予想される課題】

- 高齢化による学校支援ボランティアの担い手の減少が予想される中で、担い手の確保や更なる人材の活用が求められます。
- 核家族化が更に進み、子どもたちが親と教員以外の大人に関わる機会が減ると予想される中で、地域による学びの必要性が高まっています。
- 学校施設を地域に開放するなど、学びたいときに学べる場を充実させることが課題です。



なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 学校と地域の協働

学校支援ボランティアを活用した授業づくりや多様な交流を通じて、児童・生徒に幅広い知識や能力を習得させるとともに、情操や人間性を育成します。

また、コミュニティ・スクール^{*}を推進し、学校と地域住民が目標を共有することで、共に育つ学校と地域の協働体制を確立します。

関係する町田市の計画

- 町田市教育プラン2019-2023

みんなの想い



子どもに関わるボランティアに積極的に参加したい。



地域のイベントに参加して、色んな人と交流したいなあ。

胎児期・幼年期
(0～5歳)

少年期
(6～18歳)

青壮年期
(19～44歳)

中年期
(45～64歳)

高年期
(65歳～)

＼ 政策 ＼

4

いくつになっても自分の 楽しみが見つかるまちになる



人生100年時代において、中年期はまだ人生の折り返し地点を過ぎたあたりです。今のキャリアを成熟させるとともに、現段階からセカンドキャリア*を見据えた学びや活動を始めることで、より充実した人生設計が可能となります。いくつになっても、打ち込めるものが見つかるよう、生涯学習の支援や、スポーツ環境の充実などを図っていきます。



POLICY

政策実現によってなりたい姿

仕事や家庭からはなれても、地域で学習やスポーツに触れる機会があり、暮らしを豊かにできる居場所があります。

政策実現にあたって意識する指標

市内で学習やスポーツに
触れる機会があった
市民の割合



現状と課題

高齢者の担う社会的な役割が多様化している中、セカンドキャリアを見据え、いつでもどこでも学びやすい環境づくりや、元気な体を維持していくことなどが求められています。

政策に紐づく施策

施策4-1

生涯にわたる学習の
「しやすい」を支援する

施策4-2

スポーツへの参加機会を
充実させる

生涯にわたる学習の「しやすい」を支援する

施策実現によってなりたい姿

- いつでもどこでも学習しやすい環境が整い、学びの機会を逃さないようになっています。
- 学びの成果を発信しやすく、受信しやすいようになっています。
- 学習資源のデジタル化が進むことにより、学びにアクセスしやすい環境になっています。

なりたい姿の実現度を測る指標

生涯学習活動を行う機会を持つことができた市民の割合

現状値

30.8%
(2021年度)

目標値

50.0%
(2031年度)

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国は、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価され、それをいかして様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりに取り組んでいます。
- 国は、超高齢社会への対応として、職業に必要な知識やスキルを生涯通じて身に付けるための社会人の学び直しを推進しています。

【町田市の現状・課題】

- 生涯学習に関する意識調査によると、学びの機会やきっかけを失っている現状がある一方で、習得した

知識や技能を他者のためにいかすことに対するニーズがあります。そのため、多様な学びの機会や場所の創出、学習成果をいかす機会の充実が課題です。

- 必要とする知識や技能を身につける上での情報の入手先はインターネットが多く、それを活用した、学びの提供も課題です。

【今後予想される課題】

- コロナ禍を契機に新たな生活様式が求められることに伴い、ICTを活用するなどして、新しい学びの環境を整えていくことが必要です。



なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 学びに出会う機会の充実

市民が身近な場所で学習に触れる機会として、地域の公共施設などで、関係機関と連携したイベントや講座を行います。

また、様々なライフスタイルの市民が学べるよう、電子書籍サービス、歴史・文化資源などのデジタル化を行い、いつでもどこでも学ぶことができる環境づくりを推進します。

2 学習成果をいかす機会の充実

市民が学んだ成果をいかして地域の中で活動できるよう、必要な知識や技能を習得できる機会を提供します。また、市民同士の学び合いの輪を広げるため、学びを深めた人たちが地域で活動することを支援します。

関係する町田市の計画

- 町田市教育プラン2019-2023
- 町田市生涯学習推進計画2019-2023

みんなの想い



同じ趣味の仲間とつながれる
イベントや機会が身近な場所で
開かれているといいなあ。